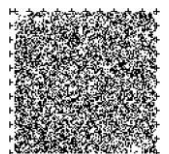


世田谷区障害者（児）実態調査報告書

【概要版】

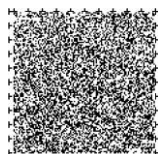
令和8年3月

世田谷区



目次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	1
4. 調査期間	1
5. 回収状況	1
6. 集計値や図表の表記について	1
II 調査結果の概要	2
1. 障害者（児）調査	2
(1) 回答者属性	2
(2) 日常生活に関することについて	3
(3) 介助または支援の状況について	5
(4) 健康と医療について	7
(5) あなたの住まいや暮らし方について	7
(6) 日中の活動について	9
(7) 通園・通学や就労の状況について	11
(8) 福祉の相談やサービス情報について	12
(9) 障害福祉のサービス等の利用状況と利用意向について	14
(10) 災害対策について	14
(11) 障害理解、差別の解消や権利擁護について	15
2. サービス提供事業者調査	17
(1) 事業所の概要について	17
(2) 事業運営の概要について	19
(3) サービスの提供体制について	20
(4) サービスの質の向上のための取り組みについて	20
(5) 今後の事業展開について	23
(6) 強度行動障害のある方について	23
(7) 利用者が希望する生活（結婚・出産等）に関する支援について	24



I 調査の概要

1. 調査目的

世田谷区（以下「区」）が区内に住所を有する障害者（児）の生活や心身の状況、その置かれている環境等及び事業者のサービス供給体制等を把握し、令和9年度から令和11年度の3か年を計画期間とする、（仮称）せたがやインクルージョンプラン（世田谷区障害施策推進計画）の策定における基礎資料とするため、実態調査を実施しました。

2. 調査対象

- 障害者（児）実態調査：令和7年10月1日時点で区内にお住まいの障害者手帳をお持ちの方、障害福祉サービスの支給決定を受けている方、障害福祉サービス利用の対象となる難病指定を受けている方等
- サービス提供事業所調査：世田谷区民に対してサービスを提供している世田谷区内の事業所

3. 調査方法

郵送配付・郵送回収及びインターネット回答



4. 調査期間

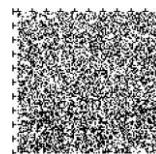
令和7（2025）年10月30日（木）～11月30日（日）

5. 回収状況

対象者	配付数	有効回収数	有効回答率
障害者（児）調査	5,500件	3,153件	57.3%
サービス提供事業所調査	300件	143件	47.7%

6. 集計値や図表の表記について

- ・集計した数値（％）は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。
そのため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値（％）をすべて合計しても、四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
- ・回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- ・図表に記載している「n=」はサンプル（標本）のサイズ（各設問の回答者数）を表しています。
- ・集計表は「その他」「無回答」を除いた上位2位まで着色しています。（1位：濃グレー 、2位：薄グレー ）
- ・クロス集計において母数が10件未満のものは、分析から除外する場合があります。
- ・全体集計ではすべての回答者を含めていますが、属性別クロス集計では、その属性項目に無回答の方を除いて集計しているため、各属性の合計と全体の回答者数が一致しない場合があります。



II 調査結果の概要

1. 障害者（児）調査

(1) 回答者属性

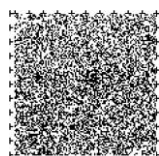
- 回答者は「あなた（ご本人）」が6割半ば、「父母」が2割近くとなっています。
- 性別は「男性」が5割を超え、「女性」が5割近くとなっています。
- 年齢は「70歳～79歳」が2割と最も多く、60歳以上が6割近くを占めています。

障害別にみると、知的障害と発達障害は若年者の割合が高く、それ以外の障害は中高年者の割合が高くなっています（表1）。

●表1 本人の年齢【障害別】

上段:件数 下段:%	合計	10歳 未満	10歳～ 19歳	20歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳～ 89歳	90歳 以上	無回答
全体	3153 100.0	218 6.9	166 5.3	138 4.4	189 6.0	232 7.4	367 11.6	493 15.6	631 20.0	516 16.4	173 5.5	30 1.0
視覚障害	147 100.0	3 2.0	8 5.4	4 2.7	6 4.1	10 6.8	10 6.8	19 12.9	34 23.1	37 25.2	16 10.9	-
聴覚・平衡機能 障害	212 100.0	6 2.8	11 5.2	2 0.9	9 4.2	12 5.7	11 5.2	19 9.0	35 16.5	71 33.5	36 17.0	-
音声・言語・そ しゃく機能障害	133 100.0	5 3.8	9 6.8	3 2.3	2 1.5	7 5.3	19 14.3	23 17.3	35 26.3	26 19.5	3 2.3	1 0.8
肢体不自由	915 100.0	30 3.3	36 3.9	32 3.5	38 4.2	40 4.4	110 12.0	178 19.5	218 23.8	167 18.3	59 6.4	7 0.8
内部障害	722 100.0	8 1.1	9 1.2	11 1.5	20 2.8	30 4.2	66 9.1	117 16.2	203 28.1	199 27.6	55 7.6	4 0.6
知的障害	453 100.0	89 19.6	102 22.5	65 14.3	82 18.1	46 10.2	39 8.6	12 2.6	8 1.8	2 0.4	2 0.4	6 1.3
発達障害	367 100.0	138 37.6	87 23.7	40 10.9	44 12.0	30 8.2	19 5.2	6 1.6	-	-	-	3 0.8
精神障害	187 100.0	2 1.1	3 1.6	25 13.4	27 14.4	27 14.4	51 27.3	36 19.3	9 4.8	3 1.6	-	4 2.1
高次脳機能障害	151 100.0	1 0.7	2 1.3	5 3.3	1 0.7	10 6.6	29 19.2	44 29.1	36 23.8	19 12.6	3 2.0	1 0.7
難病（特定疾病）	812 100.0	17 2.1	15 1.8	27 3.3	40 4.9	85 10.5	137 16.9	175 21.6	181 22.3	118 14.5	14 1.7	3 0.4
その他	89 100.0	14 15.7	3 3.4	2 2.2	2 2.2	5 5.6	7 7.9	9 10.1	15 16.9	16 18.0	15 16.9	1 1.1

- 同居者は「配偶者」が4割、「母」が2割半ば、「子（子の配偶者を含む）」と「ひとり暮らし」が2割を超えています。
- 現在の住居は「持ち家」が6割半ば、「民間賃貸住宅」が約2割となっています。
- 居住地域は「世田谷地域」が4割近く、「玉川地域」が1割半ば、「砧地域」、「北沢地域」、「鳥山地域」がそれぞれ1割台前半となっています。
- 障害は「肢体不自由（上肢・下肢・体幹・脳性麻痺・移動機能障害等）」が3割近く、「難病（特定疾病）」が2割半ば、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、肝臓、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能等）」が2割を超えています。



○発達障害の種類は「自閉スペクトラム症（ASD）」が7割を超え、「注意欠陥多動性障害（ADHD）」が3割近く、「学習障害（LD）」が1割近くとなっています。

○難病（特定疾病）の名称は「パーキンソン病」が最も多く、次いで「潰瘍性大腸炎」、「全身性エリテマトーデス（SLE）」、「好酸球性副鼻腔炎」、「クローン病」の順となっています。

○日常生活の中で、特別な支援や配慮を必要とする行動面に関する課題は「特になし」が6割近く、「睡眠の乱れ」と「こだわり」が1割を超えています（図1）。

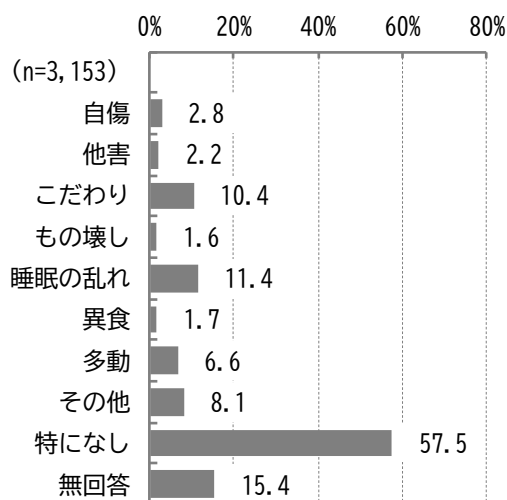
○現在所持している手帳は「身体障害者手帳」が6割近く、「愛の手帳」が約6%、「精神障害者保健福祉手帳」が約3%となっており、「手帳を所持していない」は約2割となっています。

○主な障害が発生した時期は、「出生後」が約7割、「出生前または出生時」が1割を超えています。

○障害者総合支援法での障害支援区分は「認定を受けていない」が約2割となっています。

○介護保険を受けている方の要介護度は「要介護2」が最も多く、次いで「要支援2」、「要介護4」、「要介護3」の順となっています。

●図1 日常生活の中で特別な支援や配慮を必要とする行動面に関する課題



(2) 日常生活に関することについて

○日常生活に関して一人でできることについて、全15項目のいずれも「一人でできる」が最も多くなっています。「一人ではできない（いつも手助けが必要）」が最も多いのは「⑭火災や地震などのときの避難」で、次いで「⑬交通手段の利用」、「⑧日常の買い物」の順となっています。

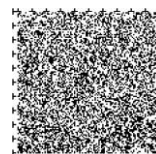
○他の人との意思疎通（コミュニケーション）の方法は、「特別な技術や用具を使わなくてもできる」が6割半ば、「口話」が3割近く、「パソコン（電子メール等）・携帯電話・スマートフォン・タブレット」が2割近くとなっています。

○インターネットを活用する際に使用する機器は、「スマートフォン」が6割、「パソコン」が3割を超え、「タブレット端末」が2割を超えており、「インターネットを利用していない」は2割半ばとなっています。

○インターネットを活用する際に使用する機能、ソフト（アプリ）、周辺機器等は「特に使用していない」が8割近くとなっています。

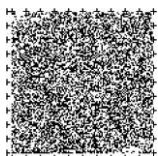
○情報を入手する際や、コミュニケーションをとる際に困ることは、「特に困らない」が4割近く、「初めて行くところでは、不安になる」が2割半ば、「まわりの人と意思疎通が十分にできない」が1割半ばとなっています。

障害別にみると、視覚障害と聴覚・平衡機能障害、知的障害、発達障害、精神障害は「初めて行くところでは、不安になる」、音声・言語・そしゃく機能障害と高次脳機能障害は「まわりの人と意思疎通が十分にできない」が最も多くなっています（表2）。



●表2 情報を入手する際やコミュニケーションをとる際に困ること【障害別】

上段:件数 下段:%	合計	点字・音声の出版物が 少ない	音声による情報が 少ない	視覚障害者向けの行政 の広報誌等が手に入り にくい	ウェブ上(スマートフォン やパソコン)か らの情報入手が難しい	手話で十分に意思を伝 えることに限界がある	筆談で十分に意思を伝 えることに限界がある	字幕付きのテレビ・ 動画・講座等が少ない	手話付きのテレビ・ 動画・講座等が少ない	重要な手紙に気が付か ず、放置してしまう
全体	3153 100.0	10 0.3	58 1.8	27 0.9	273 8.7	23 0.7	54 1.7	91 2.9	3 0.1	197 6.2
視覚障害	147 100.0	5 3.4	14 9.5	16 10.9	26 17.7	1 0.7	2 1.4	2 1.4	-	17 11.6
聴覚・平衡機能 障害	212 100.0	-	9 4.2	-	20 9.4	12 5.7	25 11.8	51 24.1	3 1.4	11 5.2
音声・言語・そ しゃく機能障害	133 100.0	-	7 5.3	2 1.5	17 12.8	4 3.0	10 7.5	6 4.5	-	11 8.3
肢体不自由	915 100.0	4 0.4	15 1.6	4 0.4	101 11.0	6 0.7	17 1.9	25 2.7	1 0.1	52 5.7
内部障害	722 100.0	-	3 0.4	2 0.3	60 8.3	1 0.1	3 0.4	20 2.8	-	24 3.3
知的障害	453 100.0	2 0.4	8 1.8	3 0.7	41 9.1	11 2.4	4 0.9	3 0.7	1 0.2	48 10.6
発達障害	367 100.0	1 0.3	6 1.6	2 0.5	21 5.7	5 1.4	1 0.3	2 0.5	1 0.3	50 13.6
精神障害	187 100.0	-	6 3.2	1 0.5	27 14.4	-	2 1.1	7 3.7	-	36 19.3
高次脳機能障害	151 100.0	1 0.7	4 2.6	1 0.7	25 16.6	-	4 2.6	2 1.3	-	21 13.9
難病(特定疾病)	812 100.0	5 0.6	13 1.6	6 0.7	51 6.3	5 0.6	4 0.5	8 1.0	1 0.1	27 3.3
その他	89 100.0	-	-	-	6 6.7	-	-	3 3.4	-	3 3.4
上段:件数 下段:%	は、初 めて行くところ で不安になる	公共施設の案内が わかりにくい	車内等での緊急時・非 常時の情報が入りにく い	まわりの人と意思疎通 が十分にできない	補聴器を購入したいが 費用が高い	インターネットやメー ルの使い方がよくわか らない	問い合わせ先の情報に FAX番号やメールアドレス の記載がない	特に困らない	無回答	
全体	803 25.5	239 7.6	182 5.8	478 15.2	86 2.7	360 11.4	74 2.3	1229 39.0	417 13.2	
視覚障害	66 44.9	25 17.0	7 4.8	15 10.2	10 6.8	12 8.2	3 2.0	23 15.6	21 14.3	
聴覚・平衡機能 障害	57 26.9	16 7.5	39 18.4	44 20.8	27 12.7	22 10.4	10 4.7	24 11.3	28 13.2	
音声・言語・そ しゃく機能障害	29 21.8	10 7.5	12 9.0	61 45.9	3 2.3	15 11.3	2 1.5	17 12.8	22 16.5	
肢体不自由	213 23.3	82 9.0	50 5.5	140 15.3	25 2.7	144 15.7	21 2.3	308 33.7	138 15.1	
内部障害	111 15.4	45 6.2	23 3.2	32 4.4	23 3.2	91 12.6	23 3.2	363 50.3	108 15.0	
知的障害	219 48.3	58 12.8	51 11.3	211 46.6	-	55 12.1	6 1.3	55 12.1	60 13.2	
発達障害	172 46.9	36 9.8	27 7.4	143 39.0	-	26 7.1	5 1.4	80 21.8	46 12.5	
精神障害	98 52.4	23 12.3	12 6.4	45 24.1	-	22 11.8	8 4.3	41 21.9	10 5.3	
高次脳機能障害	46 30.5	16 10.6	14 9.3	47 31.1	2 1.3	20 13.2	1 0.7	21 13.9	26 17.2	
難病(特定疾病)	138 17.0	41 5.0	26 3.2	63 7.8	21 2.6	66 8.1	17 2.1	445 54.8	98 12.1	
その他	16 18.0	4 4.5	1 1.1	15 16.9	6 6.7	15 16.9	-	30 33.7	20 22.5	



(3) 介助または支援の状況について

○介助または支援を受けている人が3割半ば、受けていない人が6割近くとなっています。

障害別にみると、視覚障害と音声・言語・そしゃく機能障害、肢体不自由、知的障害、高次脳機能障害は「受けている」の方が多くなっています（表3）。

○介助または支援が必要なのは、1週間のうち平均して「毎日」が5割半ば、「週に2～3日」が1割半ば、「週に4～6日」と「週に1日以下」がそれぞれ1割を超えています。

○主に介助または支援している人は「配偶者（夫・妻）」が1割を超え、「母」が約1割となっています。

○主な介助者または支援者の年齢は、「60歳～64歳」、「65歳～69歳」、「55歳～59歳」、「75歳～79歳」がそれぞれ約1割となっています。

○主な介助者または支援者は「健康である」が約5割、「健康とは言い切れないが、介助に支障はない」が3割半ば、「病気があり、介助に支障がある」が1割近くとなっています。

○主な介助者の就労状況について、「就労していない」が4割近く、「フルタイムで就労している（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」が2割半ば、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外で就労している）」が約2割となっています。

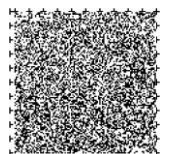
○主な介助者または支援者の介助または支援にあたっての不安や悩みについて、「自分の時間が持てない（余暇・外出・休養等）」が3割を超え、「精神的な負担が大きい」と「身体的な負担が大きい」、「介助者自身の高齢化が進んでいる」がそれぞれ2割半ばとなっています。

障害別にみると、発達障害と精神障害は「精神的な負担が大きい」、それ以外は「自分の時間が持てない（余暇・外出・休養等）」が最も多くなっています（表4）。

○主な介助者または支援者からみた、障害者本人が希望する暮らしを実現するために必要なことについて、「移動支援の充実」と「医療やリハビリテーションの充実」がそれぞれ2割近く、「周囲の人の障害への理解」と「ホームヘルプサービスの充実」がそれぞれ1割半ばとなっています。

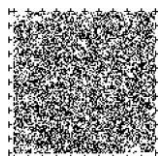
●表3 介助または支援を受けている人【障害別】

上段:件数 下段:%	合計	受けている	受けていない	無回答
全体	3153 100.0	1150 36.5	1838 58.3	165 5.2
視覚障害	147 100.0	72 49.0	61 41.5	14 9.5
聴覚・平衡機能障害	212 100.0	74 34.9	121 57.1	17 8.0
音声・言語・そしゃく機能障害	133 100.0	92 69.2	36 27.1	5 3.8
肢体不自由	915 100.0	503 55.0	371 40.5	41 4.5
内部障害	722 100.0	168 23.3	502 69.5	52 7.2
知的障害	453 100.0	286 63.1	157 34.7	10 2.2
発達障害	367 100.0	170 46.3	181 49.3	16 4.4
精神障害	187 100.0	82 43.9	98 52.4	7 3.7
高次脳機能障害	151 100.0	111 73.5	34 22.5	6 4.0
難病（特定疾病）	812 100.0	232 28.6	554 68.2	26 3.2
その他	89 100.0	40 44.9	47 52.8	2 2.2



●表4 主な介助者または支援者の介助または支援にあたっての不安や悩み【障害別】

上段:件数 下段:%	合計	介助・支援の方法 がわからない	自分の時間が持て ない(余暇・外 出・休養等)	仕事に 出られない	学校生活に 差支えがある	身体的な負担が 大きい	精神的な負担が 大きい	睡眠が 不足している	経済的な負担が 大きい	他にも介助の必要 な家族・親族がい る	
全体	1077 100.0	36 3.3	360 33.4	123 11.4	5 0.5	274 25.4	296 27.5	139 12.9	137 12.7	79 7.3	
視覚障害	64 100.0	4 6.3	23 35.9	7 10.9	- -	16 25.0	19 29.7	11 17.2	6 9.4	5 7.8	
聴覚・平衡機能 障害	84 100.0	2 2.4	24 28.6	11 13.1	1 1.2	17 20.2	18 21.4	13 15.5	8 9.5	6 7.1	
音声・言語・そ しゃく機能障害	76 100.0	2 2.6	34 44.7	10 13.2	- -	29 38.2	22 28.9	10 13.2	15 19.7	5 6.6	
肢体不自由	430 100.0	15 3.5	151 35.1	43 10.0	2 0.5	144 33.5	106 24.7	65 15.1	64 14.9	28 6.5	
内部障害	187 100.0	8 4.3	51 27.3	22 11.8	1 0.5	47 25.1	45 24.1	22 11.8	25 13.4	18 9.6	
知的障害	288 100.0	6 2.1	114 39.6	62 21.5	- -	76 26.4	102 35.4	43 14.9	33 11.5	29 10.1	
発達障害	172 100.0	8 4.7	62 36.0	43 25.0	2 1.2	39 22.7	74 43.0	19 11.0	24 14.0	15 8.7	
精神障害	40 100.0	2 5.0	12 30.0	5 12.5	- -	14 35.0	18 45.0	6 15.0	5 12.5	2 5.0	
高次脳機能障害	93 100.0	4 4.3	41 44.1	8 8.6	1 1.1	36 38.7	30 32.3	11 11.8	16 17.2	7 7.5	
難病(特定疾病)	214 100.0	6 2.8	87 40.7	31 14.5	2 0.9	63 29.4	57 26.6	44 20.6	32 15.0	15 7.0	
その他	33 100.0	2 6.1	11 33.3	5 15.2	1 3.0	2 6.1	7 21.2	10 30.3	4 12.1	4 12.1	
上段:件数 下段:%	地域の人や周囲の 理解がない	預かりの場がない	レスパイト・一時 関係づくり	隣近所の人との 関係づくり	何かあったときに 相談できる人が いない	何かあったときに 介助を頼める人 (場所)がない	何かあったときに 介助者どうしのつ ながり・交流が ない	介助者自身の高齢 化が進んでいる	その他	特にな い	無回 答
全体	10 0.9	67 6.2	16 1.5	40 3.7	140 13.0	36 3.3	260 24.1	46 4.3	143 13.3	91 8.4	
視覚障害	- -	2 3.1	- -	3 4.7	7 10.9	3 4.7	17 26.6	5 7.8	6 9.4	4 6.3	
聴覚・平衡機能 障害	- -	2 2.4	- -	2 2.4	5 6.0	2 2.4	22 26.2	3 3.6	13 15.5	17 20.2	
音声・言語・そ しゃく機能障害	- -	6 7.9	2 2.6	3 3.9	10 13.2	4 5.3	25 32.9	4 5.3	7 9.2	1 1.3	
肢体不自由	3 0.7	29 6.7	4 0.9	15 3.5	59 13.7	11 2.6	123 28.6	14 3.3	48 11.2	33 7.7	
内部障害	- -	5 2.7	1 0.5	6 3.2	24 12.8	4 2.1	42 22.5	11 5.9	31 16.6	19 10.2	
知的障害	6 2.1	30 10.4	6 2.1	8 2.8	50 17.4	12 4.2	72 25.0	16 5.6	18 6.3	8 2.8	
発達障害	3 1.7	20 11.6	6 3.5	9 5.2	29 16.9	9 5.2	21 12.2	7 4.1	13 7.6	6 3.5	
精神障害	1 2.5	1 2.5	3 7.5	2 5.0	4 10.0	3 7.5	9 22.5	3 7.5	2 5.0	2 5.0	
高次脳機能障害	1 1.1	7 7.5	2 2.2	4 4.3	10 10.8	5 5.4	26 28.0	3 3.2	8 8.6	4 4.3	
難病(特定疾病)	1 0.5	17 7.9	3 1.4	5 2.3	25 11.7	7 3.3	49 22.9	8 3.7	25 11.7	13 6.1	
その他	- -	2 6.1	- -	2 6.1	5 15.2	- -	8 24.2	2 6.1	2 6.1	5 15.2	

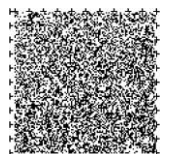


(4) 健康と医療について

- 現在の治療状況について、「定期的に通院している」が8割近く、「自宅で訪問診療や訪問看護を受けている」が1割を超えています。
- 継続的に治療を受けたり、ご自身の健康や悩み、障害等について相談できるかかりつけ医療機関が「ある」が8割半ば、「ない」が1割近くとなっています。
- かかりつけ医療機関の種類は、「区内の診療所や医院」が6割近く、「区外の総合病院や大学病院」が3割半ば、「区内の総合病院や大学病院」が2割を超えています。
- 医療的な支援（医療的ケア）を「受けていない」が約6割、「継続的な透析」と「血糖測定」が約5%となっています。
- 過去1年間の健康診断や歯科検診の受診について、「歯科検診を受けた」が約4割、「その他の健康診断を受けた（区外医療機関等で受診）」が2割を超え、「特定健診・長寿健診等を受けた（区内医療機関等で受診）」、「受けていない」がそれぞれ約2割となっています。
- 自分の健康や医療などについて困っていることや不安・悩みについて、「特に困っていることや不安はない」が約4割、「医療費の負担が大きい」が1割半ば、「障害が重度化したり難病が悪化している」、「健康管理や服薬の管理が難しい」が1割を超えています。

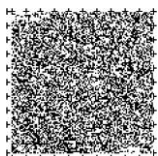
(5) あなたの住まいや暮らし方について

- どのような暮らしをしたいかについて、「今の家族と暮らしたい」が5割半ば、「ひとりで暮らしたい」が1割を超えています。
- 希望する暮らしを実現するために必要なことについて、「周囲の人の障害への理解」が2割近く、「高齢になっても通える場所の充実」が1割半ば、「相談支援の充実」、「医療やリハビリテーションの充実」などが1割を超えています。
障害別にみると、視覚障害は「移動支援の充実」、聴覚・平衡機能障害と発達障害、精神障害、高次脳機能障害は「周囲の人の障害への理解」、音声・言語・そしゃく機能障害と肢体不自由は「医療やリハビリテーションの充実」、知的障害は「財産管理や見守り等の支援」が最も多くなっています（表5）。
- 本人の1か月の平均収入（税込み）は、「月に30万円以上」が2割近く、「月に5～10万円未満」と「月に20～30万円未満」、「月に10～15万円未満」がそれぞれ1割半ばとなっています。
- 本人の収入の種類は、「年金」が6割半ば、「働いて得た収入（給料・工賃・事業収入）」が3割半ば、「世帯の収入」が約1割となっています。



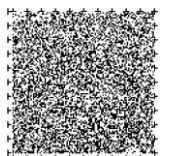
●表5 希望する暮らしを実現するために必要なこと【障害別】

上段:件数 下段:%	合計	理解 周囲の人の障害への	支援 財産管理や見守り等の	相談 支援の充実	充実 サービスの情報提供の	ホームヘルプサービスの 充実	住宅改造等（バリアフ リー化）の補助	住まいに関する相談や 支援の充実	ショートステイの整備	グループホームの整備	入所施設の整備	交流の場の充実	医療やリハビリテー ションの充実
全体	3153 100.0	613 19.4	328 10.4	403 12.8	270 8.6	329 10.4	183 5.8	191 6.1	151 4.8	136 4.3	187 5.9	134 4.2	396 12.6
視覚障害	147 100.0	26 17.7	14 9.5	13 8.8	17 11.6	26 17.7	15 10.2	7 4.8	13 8.8	4 2.7	7 4.8	12 8.2	13 8.8
聴覚・平衡機能 障害	212 100.0	50 23.6	11 5.2	21 9.9	22 10.4	23 10.8	12 5.7	11 5.2	10 4.7	12 5.7	8 3.8	12 5.7	29 13.7
音声・言語・そ しゃく機能障害	133 100.0	29 21.8	14 10.5	17 12.8	18 13.5	17 12.8	9 6.8	5 3.8	15 11.3	6 4.5	18 13.5	2 1.5	30 22.6
肢体不自由	915 100.0	157 17.2	56 6.1	106 11.6	76 8.3	148 16.2	91 9.9	59 6.4	78 8.5	25 2.7	79 8.6	35 3.8	163 17.8
内部障害	722 100.0	97 13.4	30 4.2	82 11.4	71 9.8	76 10.5	39 5.4	52 7.2	24 3.3	11 1.5	33 4.6	28 3.9	92 12.7
知的障害	453 100.0	129 28.5	173 38.2	70 15.5	16 3.5	59 13.0	8 1.8	21 4.6	46 10.2	96 21.2	59 13.0	23 5.1	29 6.4
発達障害	367 100.0	137 37.3	112 30.5	72 19.6	22 6.0	18 4.9	3 0.8	13 3.5	15 4.1	46 12.5	25 6.8	21 5.7	17 4.6
精神障害	187 100.0	70 37.4	47 25.1	49 26.2	17 9.1	12 6.4	7 3.7	12 6.4	3 1.6	13 7.0	6 3.2	13 7.0	19 10.2
高次脳機能障害	151 100.0	37 24.5	10 6.6	19 12.6	14 9.3	22 14.6	14 9.3	4 2.6	19 12.6	2 1.3	12 7.9	7 4.6	33 21.9
難病（特定疾 病）	812 100.0	120 14.8	38 4.7	92 11.3	81 10.0	86 10.6	55 6.8	52 6.4	32 3.9	12 1.5	39 4.8	24 3.0	135 16.6
その他	89 100.0	14 15.7	7 7.9	13 14.6	5 5.6	12 13.5	3 3.4	3 3.4	3 3.4	1 1.1	8 9.0	4 4.5	11 12.4
上段:件数 下段:%	移動 支援の充実	フ リー化	駅 や道路などのバリア 訓練・指 導	自 立生活のための	暮 らしながら自立生活 が体 験できる場	働 くための訓練・就 労 に向けた支援	多 様な働く場所の確保	仕 事を継続するための 相 談や支援	防 犯・災害時の支援	高 齢になっても通える 場 所の充実	そ の他	特 にない	無 回答
全体	327 10.4	234 7.4	149 4.7	100 3.2	133 4.2	234 7.4	195 6.2	288 9.1	433 13.7	88 2.8	603 19.1	265 8.4	
視覚障害	31 21.1	28 19.0	3 2.0	4 2.7	2 1.4	5 3.4	5 3.4	19 12.9	9 6.1	6 4.1	16 10.9	14 9.5	
聴覚・平衡機能 障害	23 10.8	21 9.9	5 2.4	6 2.8	2 0.9	16 7.5	9 4.2	19 9.0	33 15.6	6 2.8	26 12.3	27 12.7	
音声・言語・そ しゃく機能障害	14 10.5	10 7.5	8 6.0	4 3.0	2 1.5	4 3.0	1 0.8	22 16.5	15 11.3	6 4.5	20 15.0	8 6.0	
肢体不自由	126 13.8	122 13.3	36 3.9	16 1.7	25 2.7	48 5.2	40 4.4	104 11.4	122 13.3	32 3.5	130 14.2	78 8.5	
内部障害	70 9.7	49 6.8	10 1.4	13 1.8	13 1.8	35 4.8	23 3.2	84 11.6	120 16.6	23 3.2	164 22.7	74 10.2	
知的障害	63 13.9	2 0.4	67 14.8	44 9.7	46 10.2	51 11.3	49 10.8	25 5.5	69 15.2	9 2.0	19 4.2	19 4.2	
発達障害	27 7.4	1 0.3	55 15.0	41 11.2	44 12.0	64 17.4	46 12.5	18 4.9	31 8.4	8 2.2	40 10.9	15 4.1	
精神障害	16 8.6	4 2.1	11 5.9	10 5.3	18 9.6	23 12.3	21 11.2	13 7.0	27 14.4	2 1.1	17 9.1	10 5.3	
高次脳機能障害	23 15.2	25 16.6	8 5.3	4 2.6	2 1.3	5 3.3	8 5.3	17 11.3	25 16.6	3 2.0	15 9.9	13 8.6	
難病（特定疾 病）	80 9.9	57 7.0	22 2.7	13 1.6	24 3.0	61 7.5	49 6.0	72 8.9	95 11.7	27 3.3	213 26.2	53 6.5	
その他	5 5.6	4 4.5	3 3.4	2 2.2	1 1.1	7 7.9	1 1.1	6 6.7	11 12.4	4 4.5	20 22.5	11 12.4	



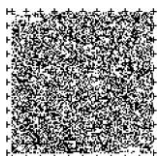
(6) 日中の活動について

- 最近2～3か月の間のレジャー、趣味、会食など、余暇やつき合いの外出について、「ほとんどしない」と「1か月に数回」がそれぞれ3割近く、「週1～2日程度」が2割を超えています。
- 買い物、通勤・通学、通院・通所など、日常生活に必要な外出については、「週3～6日程度」が約3割、「ほぼ毎日」が2割半ば、「週1～2日程度」が1割半ばとなっています。
- ほとんど外出しなかった人の理由は、「外出する用事がなかったため」が2割半ば、「障害が重いため」と「体調がよくないため」がそれぞれ2割を超え、「高齢のため」が2割近くとなっています。
- 外出するときに、困ったり、不便に思うことについて、「特にない」が3割近く、「階段の昇り降り（エレベーターが少ない）」が2割半ば、「歩道、道路、出入口の段差」と「電車、バス、タクシー等の利用の際の乗降」が2割を超えています。
障害別にみると、視覚障害と高次脳機能障害は「歩道、道路、出入口の段差」、聴覚・平衡機能障害と音声・言語・そしゃく機能障害、肢体不自由は「階段の昇り降り（エレベーターが少ない）」、精神障害は「移動にお金がかかる」、それ以外の障害は「特にない」が最も多くなっています（表6）。
- 仕事や学校、施設等に通ったりする以外にしていることについて、「家族と過ごしている」が5割を超え、「一人でいることが多い」が3割を超え、「趣味やスポーツの活動をしている」が約2割となっています。
- 外出のときの移動手段等は「電車」が6割を超え、「バス」が5割近く、「徒歩」が4割半ば、「タクシー」が約3割となっています。
- 休日や余裕のあるときの過ごし方について、「家でくつろぐ」が6割を超え、「買い物」が3割半ば、「近所の散歩」が約3割、「趣味や学習活動、習い事」が2割半ばとなっています。
- 趣味、学習、スポーツ、文化・芸術活動、社会活動などに参加するために必要なことについて、「身近なところで活動できる」が2割半ば、「友人や仲間がいる」が約2割となっています。
- この1年間にスポーツや運動（軽い体操やレクリエーション等を含む。）を行った回数は「行わなかった」が3割半ば、「週に3回以上」が2割近く、「週1回」と「週2回」が1割を超えています。
- スポーツや運動をする目的は「健康の維持・増進」が約6割、「運動不足による」が4割近く、「楽しみや余暇活動として」が3割を超えています。
- どのようなきっかけがあればスポーツや運動をより頻繁に行うと思うかについて、「身近にサポートしてくれる人がいること」が約2割、「気軽にスポーツ・運動ができる施設や環境」が1割半ばとなっています。



●表6 外出するときに困ったり、不便に思うこと【障害別】

上段:件数 下段:%	合計	電車、バス、タクシー等の利用の際の乗降	歩道、道路、出入口の段差	階段の昇り降り(エレベーターが少ない)	手すりがない	路上の障害物	歩道がせまい・あふまない	利用できるトイレが少ない(使いにくい)	内がわかりにく	標識や表示、案内がわかりにく	点字誘導ブロックや盲人用信号が少ない
全体	3153 100.0	680 21.6	699 22.2	852 27.0	458 14.5	356 11.3	647 20.5	458 14.5	120 3.8	24 0.8	
視覚障害	147 100.0	54 36.7	75 51.0	57 38.8	40 27.2	53 36.1	60 40.8	25 17.0	28 19.0	17 11.6	
聴覚・平衡機能障害	212 100.0	54 25.5	55 25.9	68 32.1	34 16.0	19 9.0	50 23.6	30 14.2	8 3.8	1 0.5	
音声・言語・そしゃく機能障害	133 100.0	39 29.3	43 32.3	44 33.1	30 22.6	27 20.3	40 30.1	30 22.6	4 3.0	1 0.8	
肢体不自由	915 100.0	329 36.0	383 41.9	399 43.6	223 24.4	197 21.5	308 33.7	221 24.2	30 3.3	4 0.4	
内部障害	722 100.0	123 17.0	140 19.4	216 29.9	102 14.1	57 7.9	118 16.3	85 11.8	20 2.8	1 0.1	
知的障害	453 100.0	82 18.1	56 12.4	56 12.4	23 5.1	36 7.9	97 21.4	79 17.4	33 7.3	6 1.3	
発達障害	367 100.0	40 10.9	19 5.2	25 6.8	15 4.1	15 4.1	60 16.3	44 12.0	18 4.9	3 0.8	
精神障害	187 100.0	33 17.6	26 13.9	33 17.6	19 10.2	13 7.0	35 18.7	25 13.4	7 3.7	-	
高次脳機能障害	151 100.0	52 34.4	68 45.0	60 39.7	44 29.1	44 29.1	60 39.7	39 25.8	8 5.3	1 0.7	
難病(特定疾病)	812 100.0	180 22.2	173 21.3	247 30.4	129 15.9	84 10.3	162 20.0	123 15.1	27 3.3	9 1.1	
その他	89 100.0	19 21.3	17 19.1	23 25.8	15 16.9	5 5.6	16 18.0	9 10.1	1 1.1	-	
上段:件数 下段:%	い すが 利用 しに く	福 祉 移 動 サ ー ビ ス が 利 用 し に く	移 動 手 段 が な い	か か る 移 動 に お 金 が	介 助 者 が い な い	外 出 す る 場 所 が な い	周 囲 の 人 が 理 解 し て く れ な い	そ の 他	外 出 し な い (で き な い)	特 に な い	無 回 答
全体	213 6.8	110 3.5	477 15.1	195 6.2	164 5.2	163 5.2	149 4.7	104 3.3	914 29.0	221 7.0	
視覚障害	21 14.3	12 8.2	21 14.3	19 12.9	5 3.4	7 4.8	8 5.4	10 6.8	13 8.8	13 8.8	
聴覚・平衡機能障害	13 6.1	5 2.4	32 15.1	10 4.7	11 5.2	7 3.3	16 7.5	11 5.2	49 23.1	13 6.1	
音声・言語・そしゃく機能障害	15 11.3	9 6.8	31 23.3	10 7.5	10 7.5	6 4.5	8 6.0	23 17.3	20 15.0	3 2.3	
肢体不自由	106 11.6	43 4.7	205 22.4	88 9.6	60 6.6	47 5.1	49 5.4	50 5.5	110 12.0	45 4.9	
内部障害	26 3.6	28 3.9	92 12.7	25 3.5	23 3.2	12 1.7	27 3.7	23 3.2	232 32.1	56 7.8	
知的障害	62 13.7	16 3.5	64 14.1	61 13.5	52 11.5	76 16.8	40 8.8	9 2.0	123 27.2	25 5.5	
発達障害	33 9.0	13 3.5	57 15.5	23 6.3	43 11.7	63 17.2	30 8.2	4 1.1	141 38.4	26 7.1	
精神障害	13 7.0	5 2.7	57 30.5	13 7.0	14 7.5	18 9.6	12 6.4	5 2.7	46 24.6	15 8.0	
高次脳機能障害	21 13.9	9 6.0	36 23.8	14 9.3	19 12.6	12 7.9	6 4.0	13 8.6	9 6.0	8 5.3	
難病(特定疾病)	55 6.8	40 4.9	129 15.9	42 5.2	31 3.8	32 3.9	42 5.2	25 3.1	275 33.9	43 5.3	
その他	5 5.6	5 5.6	10 11.2	6 6.7	2 2.2	3 3.4	4 4.5	8 9.0	30 33.7	9 10.1	



(7) 通園・通学や就労の状況について

○平日の昼間の主な活動は「企業等で仕事をしている」が2割を超え、「施設等に通所している」と「通園・通学している」がそれぞれ1割半ばとなっています。

○通園・通学しているところは「保育園・幼稚園」が2割半ば、「特別支援学校小・中学部」と「普通学級（小・中学校）」、「特別支援学級（小・中学校）」がそれぞれ2割近くとなっています。

○通園・通学をする上で、困っていることは「特にない」が4割半ば、「通園・通学先が遠い」が2割を超え、「通園・通学の付き添いの確保」が1割半ば、「職員・教員の理解が不足」が約1割となっています（図2）。

○現在通っている学校・園などの次の生活の希望について、「特別支援学級、特別支援学校に通いたい」と「小・中学校や高校の普通学級に通いたい」がそれぞれ3割近く、「わからない、決まっていない」が1割半ばとなっています。

○放課後や夏休みなどの長期休暇に主に過ごす場所について、「自分の家」が8割近く、「放課後等デイサービス」が4割半ば、「遊び場・公園等」が2割を超えています。

○企業等で仕事をしている人の就労形態について、「正社員」が3割半ば、「パート・アルバイト」が約2割、「自営業またはその手伝い」が1割半ばとなっています。

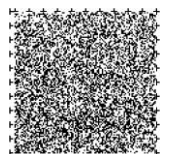
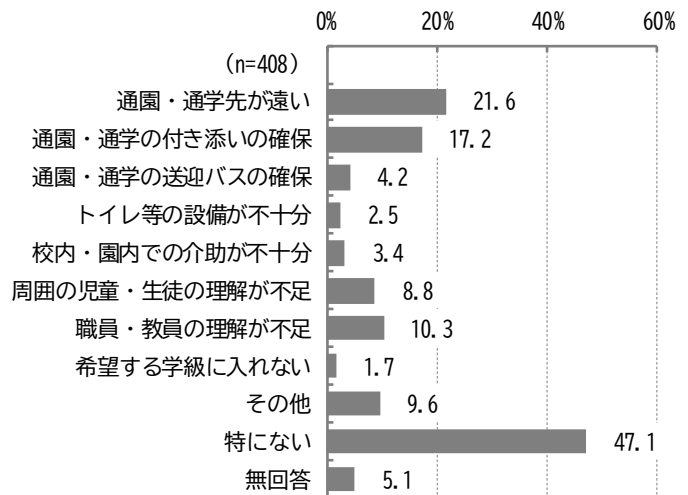
○仕事の内容は「事務の仕事」が2割半ば、「パソコンを使った仕事」が約2割、「販売・接客の仕事」と「医療・福祉の仕事」がそれぞれ1割近くとなっています。

○現在の仕事に関する悩みや不満について、「特に悩みや不満はない」が4割半ば、「賃金や待遇面で不満がある」と「仕事中の体調の変化に不安がある」が1割半ば、「通勤が大変である」が1割を超えています。

○施設等に通所する上で困っていることは「特に困っていることはない」が5割を超え、「自分の考えを伝えられない」が1割半ば、「通所するのが大変である」と「活動中の体調変化が気になる」などが1割近くとなっています。

○福祉施設利用後に困っていることは「特にない」が5割近く、「通所先の送迎者やヘルパー等の支援により帰宅するが、家族または支援者が不在だと自宅で過ごすのは難しい」が1割半ば、「余暇活動をしたいが、ヘルパー等の支援者が確保できず利用できない」と「余暇活動ができる居場所がない」などが1割近くとなっています。

●図2 通園・通学をする上で困っていること



○今後の過ごし方の希望について、「現在の施設に通いたい」が約4割、「自宅ですごしたい」が2割半ば、「一般企業に就職したい」と「わからない」がそれぞれ1割半ばとなっています。

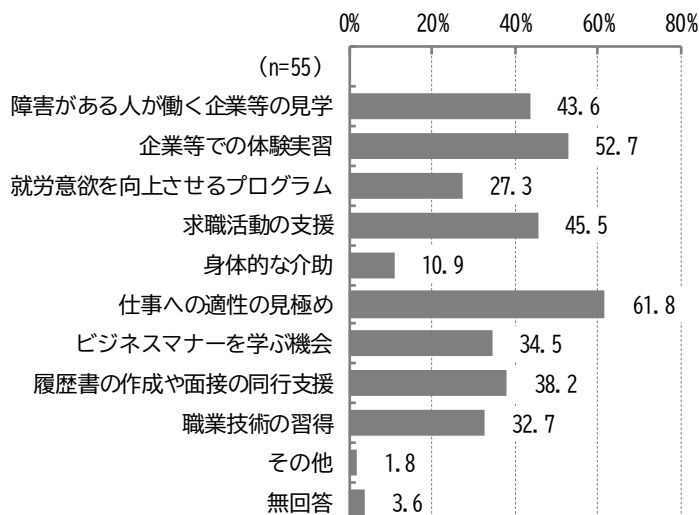
○一般企業に就職したい人が希望する働き方は「正社員」が6割、「契約社員・派遣社員・非常勤社員」と「パート・アルバイト」がそれぞれ1割半ばとなっています。

○就職にあたり希望する支援について、「仕事への適性を見極め」が6割を超え、「企業等での体験実習」が5割半ば、

「求職活動の支援」と「障害がある人が働く企業等の見学」が4割半ばとなっています（図3）。

○通園、通学、通所、仕事等をしていない理由は「高齢または体調不良のため」が約5割、「障害のため仕事や作業ができない」が2割を超え、「医療的ケアが必要なため」が約1割となっています。

●図3 就職にあたり希望する支援



(8) 福祉の相談やサービス情報について

○福祉のサービスに関する情報の入手方法は「区のおしらせ『せたがや』(区広報紙)」が3割半ば、「障害者のしおり」が約3割、「友人や知人、家族」と「インターネット」、「区のホームページ」がそれぞれ1割半ばとなっています。

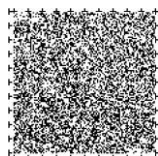
○福祉に関する相談先は「家族」が約4割、「区役所の福祉の窓口」が3割半ば、「病院・診療所」と「あんしんすこやかセンター」が1割半ばとなっています。

○普段の生活で困ったり、不安に思ったりして、相談したいと思っていることは「将来の生活のこと」と「身体・健康のこと」がそれぞれ3割近く、「仕事や収入・生活費のこと」と「治療・訓練のこと」がそれぞれ1割半ばとなっています。

障害別にみると、知的障害と発達障害、精神障害は「将来の生活のこと」、それ以外は「身体・健康のこと」が最も多くなっています。(表7)

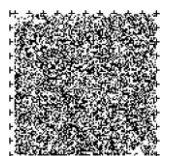
○「成年後見制度(後見、保佐、補助)」を「利用している」が約1%、「利用していない」が9割を超えています。

○成年後見制度を利用していない理由は「制度について知らなかった」が2割半ば、「利用していないが今後相談したい」と「この制度に不安を感じて利用していない」がそれぞれ1割半ばとなっています。



●表7 普段の生活で困ったり、不安に思ったりして、相談したいと思っていること【障害別】

上段:件数 下段:%	合計	治療・訓練のこと	仕事や収入・生活費のこと	日常会話・コミュニケーションのこと	学習活動や趣味の活動など	友人関係、近所づきあい	将来の生活のこと	外出・買い物など	保健・医療サービスに関すること	住宅・生活の場所のこと	福祉サービスに関すること
全体	3153 100.0	498 15.8	559 17.7	350 11.1	152 4.8	192 6.1	888 28.2	312 9.9	354 11.2	323 10.2	417 13.2
視覚障害	147 100.0	29 19.7	25 17.0	9 6.1	14 9.5	10 6.8	43 29.3	27 18.4	22 15.0	12 8.2	27 18.4
聴覚・平衡機能障害	212 100.0	29 13.7	34 16.0	37 17.5	4 1.9	10 4.7	45 21.2	19 9.0	31 14.6	18 8.5	36 17.0
音声・言語・そしゃく機能障害	133 100.0	25 18.8	17 12.8	30 22.6	6 4.5	2 1.5	30 22.6	12 9.0	20 15.0	10 7.5	23 17.3
肢体不自由	915 100.0	193 21.1	170 18.6	73 8.0	35 3.8	29 3.2	262 28.6	103 11.3	124 13.6	125 13.7	166 18.1
内部障害	722 100.0	99 13.7	106 14.7	24 3.3	14 1.9	21 2.9	151 20.9	60 8.3	90 12.5	58 8.0	82 11.4
知的障害	453 100.0	61 13.5	82 18.1	136 30.0	52 11.5	55 12.1	228 50.3	75 16.6	43 9.5	68 15.0	78 17.2
発達障害	367 100.0	57 15.5	82 22.3	145 39.5	66 18.0	96 26.2	166 45.2	54 14.7	35 9.5	54 14.7	59 16.1
精神障害	187 100.0	33 17.6	84 44.9	45 24.1	13 7.0	35 18.7	93 49.7	35 18.7	33 17.6	35 18.7	34 18.2
高次脳機能障害	151 100.0	41 27.2	26 17.2	24 15.9	7 4.6	8 5.3	40 26.5	12 7.9	18 11.9	20 13.2	27 17.9
難病（特定疾病）	812 100.0	170 20.9	154 19.0	45 5.5	25 3.1	20 2.5	217 26.7	73 9.0	122 15.0	83 10.2	114 14.0
その他	89 100.0	13 14.6	13 14.6	9 10.1	6 6.7	5 5.6	17 19.1	4 4.5	8 9.0	7 7.9	8 9.0
上段:件数 下段:%	進学・学校生活のこと	交通機関の利用に関すること	金銭管理・契約などのこと	身体・健康のこと	結婚、性、恋愛などに関すること	親や介護者の高齢化のこと	障害理解や差別に関すること	その他	特にない	無回答	
全体	209 6.6	197 6.2	257 8.2	870 27.6	109 3.5	422 13.4	172 5.5	80 2.5	769 24.4	259 8.2	
視覚障害	8 5.4	19 12.9	9 6.1	46 31.3	4 2.7	18 12.2	11 7.5	7 4.8	32 21.8	14 9.5	
聴覚・平衡機能障害	10 4.7	12 5.7	14 6.6	57 26.9	3 1.4	19 9.0	12 5.7	8 3.8	45 21.2	25 11.8	
音声・言語・そしゃく機能障害	7 5.3	8 6.0	8 6.0	39 29.3	2 1.5	22 16.5	5 3.8	5 3.8	33 24.8	9 6.8	
肢体不自由	34 3.7	77 8.4	53 5.8	299 32.7	20 2.2	147 16.1	45 4.9	32 3.5	192 21.0	74 8.1	
内部障害	8 1.1	36 5.0	26 3.6	222 30.7	13 1.8	62 8.6	10 1.4	19 2.6	214 29.6	76 10.5	
知的障害	97 21.4	39 8.6	106 23.4	85 18.8	40 8.8	141 31.1	58 12.8	9 2.0	66 14.6	22 4.9	
発達障害	129 35.1	32 8.7	81 22.1	67 18.3	38 10.4	74 20.2	61 16.6	4 1.1	45 12.3	15 4.1	
精神障害	3 1.6	19 10.2	51 27.3	80 42.8	29 15.5	46 24.6	30 16.0	8 4.3	18 9.6	5 2.7	
高次脳機能障害	2 1.3	9 6.0	15 9.9	48 31.8	4 2.6	34 22.5	10 6.6	3 2.0	25 16.6	14 9.3	
難病（特定疾病）	19 2.3	50 6.2	37 4.6	241 29.7	20 2.5	109 13.4	32 3.9	21 2.6	224 27.6	60 7.4	
その他	12 13.5	3 3.4	7 7.9	15 16.9	4 4.5	9 10.1	2 2.2	5 5.6	23 25.8	10 11.2	



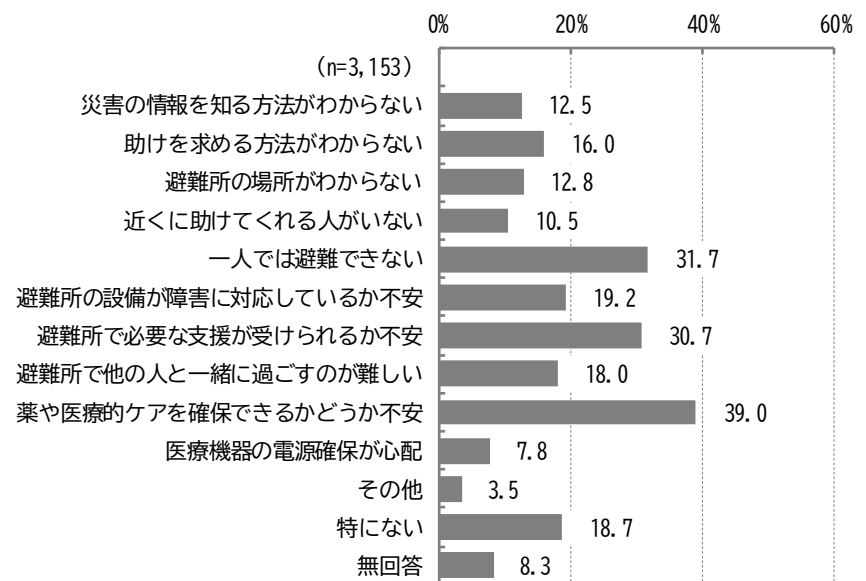
(9) 障害福祉のサービス等の利用状況と利用意向について

- 現在利用している障害福祉サービスは「居宅介護（ホームヘルプ）」と「計画相談支援《個別計画》」がそれぞれ約1割となっています。
- 現在利用しているサービスの満足度について、10人以上が利用していると回答したサービスの「満足」の割合は「保育所等訪問支援」が6割を超え、「放課後等デイサービス」と「就労定着支援」、「児童発達支援」は4割半ば、「行動援護」と「自立生活援助」、「福祉ホーム」は約4割となっています。
- 現在利用しているサービスの不満について、「短期入所（ショートステイ）」と「移動支援」は「利用したいときに利用できない」が5割を超えています。
- 現在は利用していないが、今後利用したいサービスは「居宅介護（ホームヘルプ）」が1割近く、「短期入所（ショートステイ）」と「移動支援」が5%を超えています。
- 40歳以上の人に介護保険サービスの利用について尋ねたところ、「介護保険サービスを利用していない」が5割を超え「訪問介護（ホームヘルプ）」が1割半ば、「通所介護（デイサービス）」が約1割となっています。

(10) 災害対策について

●図4 地震などの災害発生時に困ることや不安なこと

- 地震などの災害発生時に困ることや不安なことは「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が4割近く、「一人では避難できない」と「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が3割を超えています（図4）。

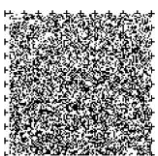


- 災害発生時の避難場所を「知っている」が6割近く、「知らない」が3割半ばとなっています。

- 災害発生時のために、周囲の人に支援が必要であることを申し出ているかについて、「はい」が約7%、「いいえ」が7割を超えています。

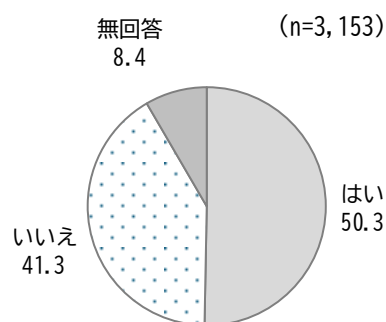
- ハザードマップ（洪水、土砂）、防災マップ等を持っているかについて、「はい」が5割を超え、「いいえ」が4割近くとなっています。

- 防災アプリ（東京都防災）、気象情報アプリ（ウェザーニューズ、ヤフー等）を利用しているかについて、「はい」と「いいえ」がいずれも4割半ばとなっています。



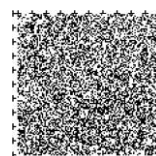
- 日常的な備蓄やローリングストックをしているかについて、「はい」が5割半ば、「いいえ」が3割半ばとなっています。
- 蓄電池、発電機、モバイルバッテリー等、停電に対する備えはあるかについて、「はい」と「いいえ」がいずれも4割半ばとなっています。
- 自主避難、在宅避難、縁故避難等を知っているかについて、「はい」が5割近く、「いいえ」が4割を超えています。
- 一時集合所、広域避難場所、指定避難所等を知っているかについて、「はい」が約5割、「いいえ」が約4割となっています。
- 風水害が発生する恐れがあるとき、どの警戒レベルまでに避難を開始するか知っているかについて、「はい」が3割近く、「いいえ」が6割を超えています。
- 避難を支援してくれる人はいるかについて、「はい」が約5割、「いいえ」が4割を超えています(図5)。

●図5 避難を支援してくれる人はいるか



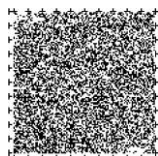
(11) 障害理解、差別の解消や権利擁護について

- 障害を理由とする差別や偏見を感じたことがあるかについて、「ない」が4割半ば、「ある」と「少しある」、「わからない」がそれぞれ1割半ばとなっています。
- 差別や偏見を感じた場面について、「仕事や収入」が3割半ば、「お店などでの対応」が3割近く、「道路・交通機関」と「教育・育児」が2割半ばとなっています。
障害別にみると、視覚障害と肢体不自由は「道路・交通機関」、聴覚・平衡機能障害と高次脳機能障害は「お店などでの対応」、音声・言語・そしゃく機能障害は「建物・市街の構造」、内部障害と精神障害、高次脳機能障害、難病（特定疾病）は「仕事や収入」、知的障害と発達障害は「教育・育児」が最も多くなっています（表8）。
- 平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（「障害者差別解消法」）が施行されたことを「知っている」が1割半ば、「知らない」が7割半ばとなっています。
- 世田谷区に障害者差別や合理的配慮に関する相談窓口があることを「知っている」が1割半ば、「知らない」が8割を超えています。
- 世田谷区に虐待の相談窓口があることを「知っている」が2割半ば、「知らない」が7割近くとなっています。
- 令和5年1月に「世田谷区障害理解の促進と地域共生社会の実現をめざす条例」が施行されたことを「知っている」が約6%、「知らない」が9割近くとなっています。
- 令和6年4月に世田谷区手話言語条例が施行されたことを「知っている」が約4%、「知らない」が9割近くとなっています。



●表8 差別や偏見を感じた場面【障害別】

上段:件数 下段:%	合計	仕事や収入	教育・育児	趣味や スポーツ の活動	地区の行事 ・集まり	お店など での対応	役所・ 公共機関	道路・ 交通機関
全体	939 100.0	306 32.6	217 23.1	136 14.5	90 9.6	278 29.6	111 11.8	249 26.5
視覚障害	46 100.0	14 30.4	8 17.4	8 17.4	7 15.2	17 37.0	9 19.6	21 45.7
聴覚・平衡機能 障害	83 100.0	26 31.3	13 15.7	12 14.5	12 14.5	31 37.3	14 16.9	11 13.3
音声・言語・そ しゃく機能障害	42 100.0	10 23.8	8 19.0	6 14.3	7 16.7	14 33.3	7 16.7	14 33.3
肢体不自由	323 100.0	94 29.1	51 15.8	43 13.3	29 9.0	104 32.2	51 15.8	120 37.2
内部障害	114 100.0	40 35.1	18 15.8	11 9.6	6 5.3	18 15.8	15 13.2	25 21.9
知的障害	250 100.0	60 24.0	98 39.2	47 18.8	38 15.2	92 36.8	28 11.2	68 27.2
発達障害	204 100.0	54 26.5	97 47.5	49 24.0	27 13.2	66 32.4	24 11.8	52 25.5
精神障害	117 100.0	61 52.1	12 10.3	20 17.1	11 9.4	36 30.8	15 12.8	23 19.7
高次脳機能障害	56 100.0	19 33.9	3 5.4	6 10.7	4 7.1	19 33.9	11 19.6	17 30.4
難病（特定疾病）	169 100.0	56 33.1	34 20.1	18 10.7	10 5.9	33 19.5	17 10.1	49 29.0
その他	19 100.0	3 15.8	9 47.4	-	-	5 26.3	3 15.8	2 10.5
上段:件数 下段:%	建物・ 市街の構造	社会制度・ 慣習	結婚・交際	地域交流	イベント など	その他	無回答	
全体	144 15.3	190 20.2	105 11.2	75 8.0	88 9.4	96 10.2	38 4.0	
視覚障害	15 32.6	14 30.4	6 13.0	9 19.6	10 21.7	2 4.3	2 4.3	
聴覚・平衡機能 障害	11 13.3	13 15.7	10 12.0	15 18.1	13 15.7	9 10.8	2 2.4	
音声・言語・そ しゃく機能障害	17 40.5	11 26.2	2 4.8	4 9.5	9 21.4	2 4.8	-	
肢体不自由	101 31.3	72 22.3	25 7.7	21 6.5	34 10.5	29 9.0	14 4.3	
内部障害	19 16.7	20 17.5	16 14.0	2 1.8	8 7.0	12 10.5	7 6.1	
知的障害	19 7.6	63 25.2	22 8.8	31 12.4	39 15.6	23 9.2	5 2.0	
発達障害	10 4.9	47 23.0	24 11.8	22 10.8	32 15.7	23 11.3	3 1.5	
精神障害	7 6.0	27 23.1	20 17.1	11 9.4	7 6.0	14 12.0	7 6.0	
高次脳機能障害	17 30.4	12 21.4	3 5.4	2 3.6	6 10.7	5 8.9	3 5.4	
難病（特定疾病）	37 21.9	26 15.4	23 13.6	6 3.6	8 4.7	23 13.6	5 3.0	
その他	2 10.5	3 15.8	1 5.3	2 10.5	2 10.5	3 15.8	1 5.3	

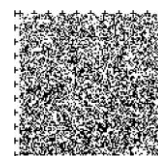


- 選挙で投票しているかについて、「はい」が約7割、「いいえ」が2割半ばとなっています。
- 投票の際に困ったことについて、投票所への移動、投票用紙の記入、投票に関するバリア（障壁）、投票所での支援などに関する意見が多く挙げられました。
- 投票に行くのに必要なサポートについて、投票所への移動、介助、投票方法の改善などに関する意見が挙げられた一方、様々な事情により、そもそも投票自体が困難との意見も多くなっています。
- 日常的な困りごとや区の障害者福祉施策について、障害福祉サービス、移動支援、経済的支援、障害福祉サービスに関する情報提供に関する意見が多く挙げられました。

2. サービス提供事業者調査

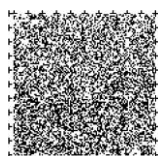
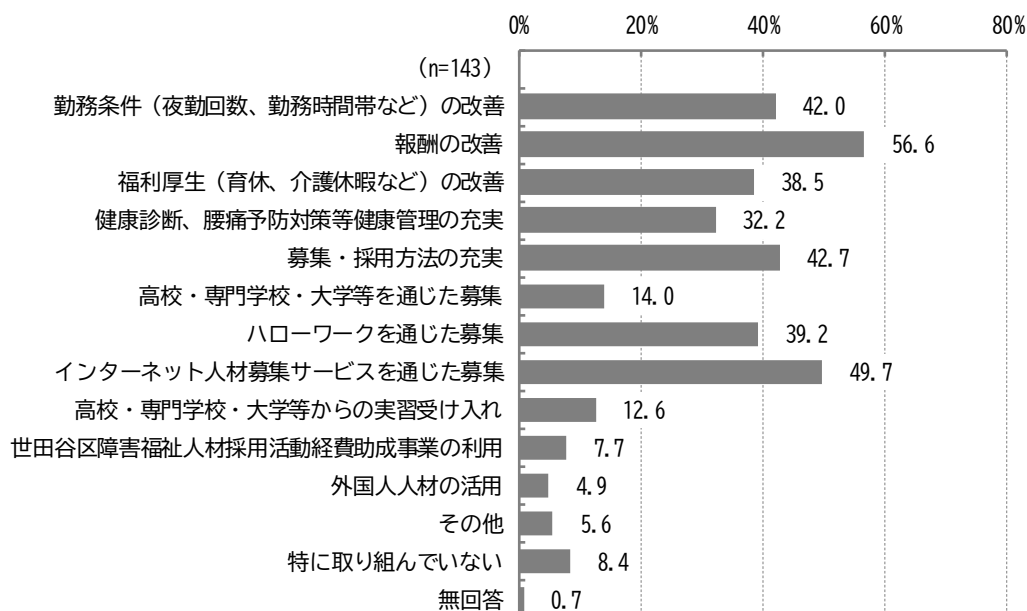
(1) 事業所の概要について

- 事業所の法人格は「営利企業（会社）」が4割半ば、「社会福祉法人」が2割半ば、「特定非営利活動法人（NPO）」が1割半ばとなっています。
- 事業所の所在地は「世田谷総合支所管内」と「砧総合支所管内」が2割半ば、「玉川総合支所管内」が約2割となっています。
- 提供しているサービスは「居宅介護」が3割半ば、「重度訪問介護」が3割近く、「就労継続支援（B型）」と「児童発達支援」が1割半ばとなっています。
- サービスごとに1事業所あたりの平均利用者数が多いものをみると、施設入所支援の知的障害者38.00人、計画相談支援の知的障害者31.47人、精神障害者28.16人、放課後等デイサービスの障害児24.40人の順となっています。
- 令和7年10月1日現在の職員数は「5～10人未満」と「10～20歳未満」がそれぞれ3割近く、「5人未満」が1割半ばとなっています。
- 令和7年10月1日現在の職種別の職員数はいずれの職種も「いない」が最も多くなっています。それを除いて最も多い項目をみると、生活支援員は「5人未満」が3割近く、介護職員は「10～20人未満」が1割超、看護師は「5人未満」が1割半ば、栄養士は「5人未満」が約6%、理学療法士は「5人未満」が約8%、作業療法士は「5人未満」が約6%、職業指導員は「5人未満」が1割半ば、事務職員は「5人未満」が2割半ばとなっています。
- 令和7年10月1日現在の経験年数（貴事業所での年数に限らず）別の職員数は6か月未満から5年未満は「いない」、5年以上は「5人未満」が最も多くなっています。
- 現在、職員の過不足の状況は「やや不足している」が3割半ばで、「大変不足している」と「不足している」、「やや不足している」を合わせると、7割を超える事業所が職員不足の状況にあると回答しています。



- 不足している職員の職種は「介護職員」が3割半ば、「生活支援員」が2割半ば、「事務職員」が1割近くとなっています。
- 令和6年度中の退職者数は「5人未満」が4割半ば、「いない」が4割超、「5～10人未満」が1割近くとなっています。
- 離職の理由として考えられることは「健康上の問題」が2割半ば、「家庭の事情（その他）」が2割近く、「仕事上のストレス」と「キャリアアップのため」が1割半ばとなっています。
- 事業所（法人）で人材を確保するために取り組んでいることは「報酬の改善」が5割半ば、「インターネット人材募集サービスを通じた募集」が約5割、「募集・採用方法の充実」と「勤務条件（夜勤回数、勤務時間帯など）の改善」が4割を超えています（図6）。
- 事業所（法人）でスタッフの質の向上など、人材を育成するために取り組んでいることは「事務所内での研修の実施」が8割近く、「OJTの実施」が5割半ば、「資格取得のための休暇取得の支援や金銭的な支援」が5割を超えています。
- 事業所（法人）で人材の確保や質の向上に向けて連携している機関や団体は「ハローワーク」が4割近く、「世田谷区」と「介護・医療・福祉分野の事業者団体」が2割半ばとなっています。
- 事業所（法人）での人材育成の研修受講の有無について、「時々参加している」と「計画的に参加している」が3割半ば、「業務が忙しくて参加できない」が2割半ばとなっています。
- 事業所（法人）の研修受講先は「東京都」が6割半ば、「世田谷区」が5割半ば、「福祉人材育成・研修センター」が5割近くとなっています。
- 受講している研修内容について、福祉サービス、専門的ケア、権利擁護、マネジメント、実務スキルなど、様々な研修が挙げられています。

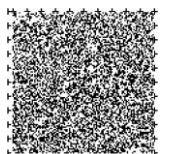
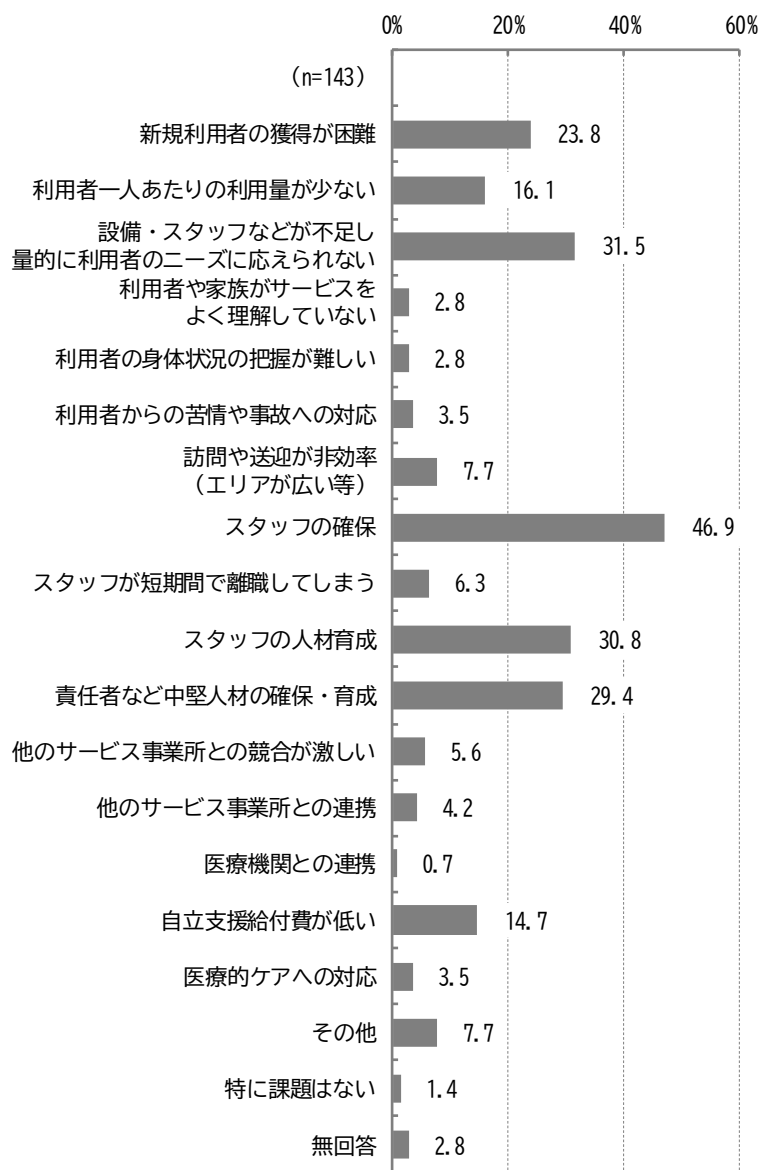
●図6 事業所（法人）で人材を確保するために取り組んでいること



(2) 事業運営の概要について

- 事業所における令和6年度の収入の状況は、令和5年度と比較して「増加した」が5割近く、「減少した」が2割近く、「変わらない」が2割半ばとなっています。
- 事業所における令和6年度の支出の状況は、令和5年度と比較して「増加した」が5割を超え、「減少した」が1割近く、「変わらない」が3割近くとなっています。
- 事業所における令和6年度の収支について、「増収した」、「減収した」、「変わらない」がいずれも約3割となっています。
- 増収の理由で最も多かったのは「利用者の増加」の6割半ばで、「サービス報酬の改定」が3割半ば、「補助金の増額」が2割半ばとなっています。
- 減収の理由で最も多かったのは「人件費の増加」の6割半ばで、「事務経費等必要経費の増加」が4割半ば、「利用者の減少」が4割近くとなっています。
- 事業所における令和7年4月から7月までの平均利用率は「70～100%未満」が2割半ば、「10%未満」が1割半ばとなっています。
- 現在の利用率について、利用者を増やしたい、欠席の影響がある、妥当である、利用率が低いなどの意見が挙げられました。
- 事業所における事業の採算性について、「やや厳しい」が4割を超え、「余裕がある」と「とても厳しい」が1割を超えています。「十分に余裕がある」と「余裕がある」の合計が1割半ばであるのに対して、「やや厳しい」と「とても厳しい」の合計は5割半ばで、厳しいと考えている事業所の方が多くなっています。
- 事業所における事業を運営する上での課題は「スタッフの確保」が4割半ば、「設備・スタッフなどが不足し量的に利用者のニーズに応えられない」と「スタッフの人材育成」が3割を超えています（図7）。

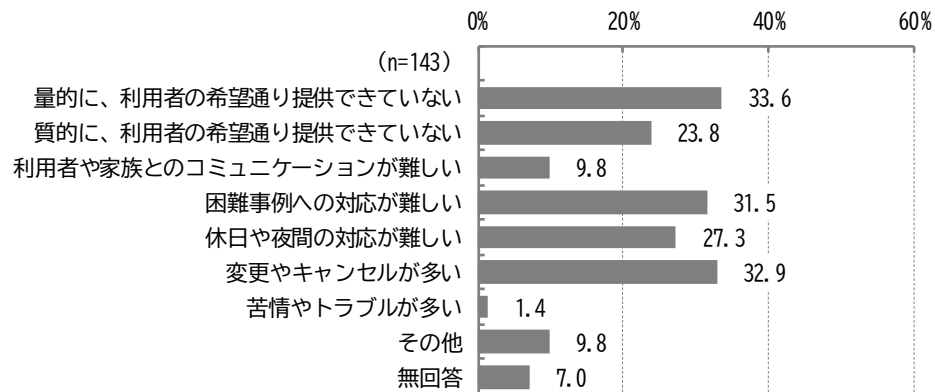
●図7 事業所における事業を運営する上での課題



(3) サービスの提供体制について

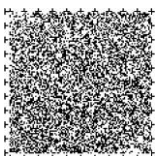
- 事業所におけるサービスを提供する上での課題は「量的に、利用者の希望通り提供できていない」と「変更やキャンセルが多い」が3割半ば、「困難事例への対応が難しい」が3割超、「休日や夜間の対応が難しい」が2割半ばとなっています（図8）。
- サービス提供上の具体的な課題、サービス提供を行っていく上で必要と考える施策などについて、人材確保、サービスの課題、運営上の課題、送迎サービスに関する意見などが挙げられました。

●図8 事業所におけるサービスを提供する上での課題

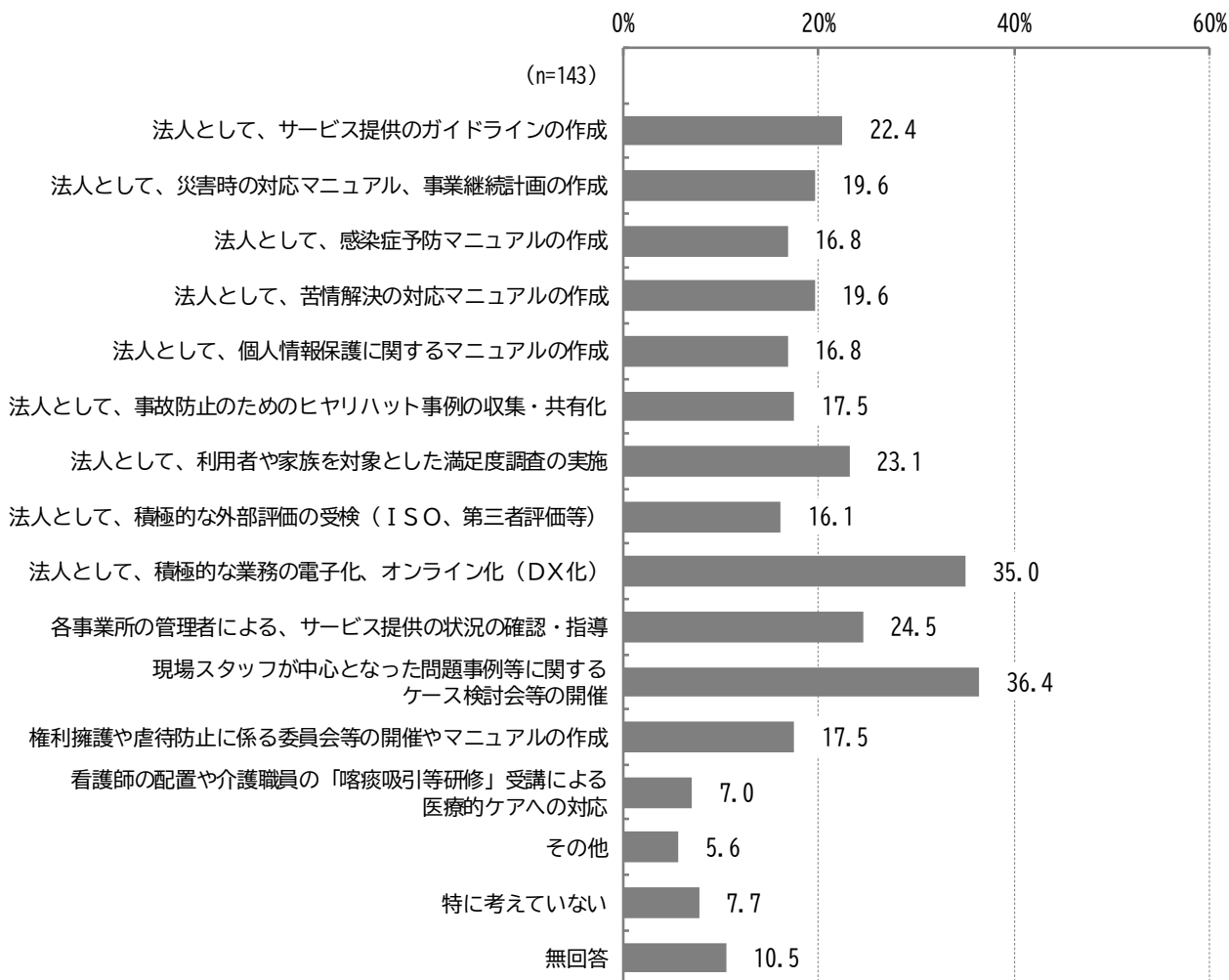


(4) サービスの質の向上のための取り組みについて

- サービスの質の向上のために現在取り組んでいることは「感染症予防マニュアルを作成している」が9割超、「災害時の対応マニュアル、事業継続計画を作成している」が9割近く、「権利擁護や虐待防止に係る委員会等の開催やマニュアルを作成している」、「苦情解決の対応マニュアルを作成している」、「事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている」が8割近くとなっています。
- サービスの質の向上のために今後取り組んでいくことは「現場スタッフが中心となった問題事例等に関するケース検討会等の開催」と「法人として、積極的な業務の電子化、オンライン化（DX化）」が3割半ば、「各事業所の管理者による、サービス提供の状況の確認・指導」と「法人として、利用者や家族を対象とした満足度調査の実施」が2割半ばとなっています（図9）。
- 事業所で利用者から多く寄せられる苦情や要望は「職員やスタッフに関すること」が4割超、「介助の内容や個別支援計画等に関すること」が2割近く、「施設での作業等内容に関すること」が約1割となっており、「特に苦情や要望はない」は3割近くとなっています。



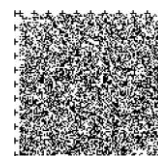
●図9 サービスの質の向上のために今後取り組んでいくこと



○何か問題が生じた場合に相談したことがある相談先は「区」が6割半ば、「相談支援事業所」が4割半ば、「法人本部」が4割近くとなっています。

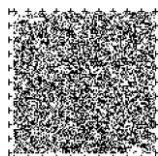
○相談した内容は「困難な事例への対応に関すること」が5割半ば、「利用者からの苦情や要望等への対応に関すること」が5割超、「緊急時対応に関すること」と「施設の運営・整備の支援に関すること」が3割半ばとなっています。

○障害者の地域生活をよりよいものとしていくため、今後区が力を入れていくべきサービスや支援は「在宅での福祉サービスの充実」が3割を超え、「障害者が地域で共同生活できる場の充実」と「移動・外出支援の充実」が2割半ば、「総合的な相談支援の充実」が約2割となっています（表9）。



●表9 障害者の地域生活をよりよいものとしていくため、今後区が力を入れていくべきサービスや支援【法人格別】

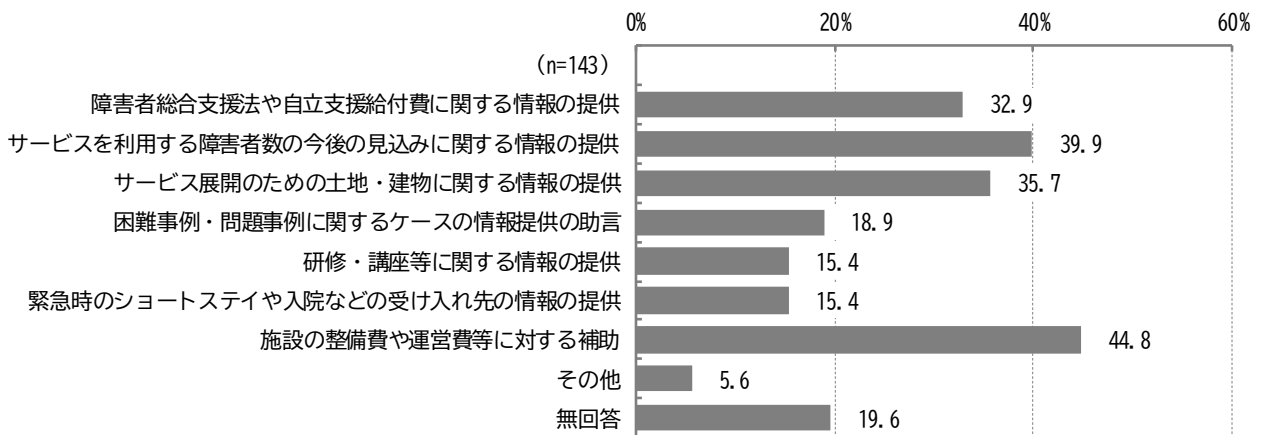
上段:件数 下段:%	合計	在宅での福祉サービスの充実	障害者が地域で共同生活できる場の充実	日中に障害者を預かるサービスの充実	寝泊まりで障害者を預かるサービスの充実	住宅改造等（バリアフリー化）の補助	住まいに関する相談や入居支援の充実	シェアハウスなど多様な居住の場の提供	福祉サービスの情報提供の充実	財産管理などの権利擁護の支援	総合的な相談支援の充実	区民への障害への理解促進	周囲の人の見守り支援の充実
全体	143 100.0	44 30.8	35 24.5	27 18.9	23 16.1	1 0.7	18 12.6	13 9.1	20 14.0	17 11.9	29 20.3	15 10.5	9 6.3
社会福祉法人	37 100.0	8 21.6	12 32.4	9 24.3	2 5.4	-	7 18.9	2 5.4	3 8.1	6 16.2	6 16.2	6 16.2	1 2.7
医療法人	4 100.0	2 50.0	1 25.0	-	1 25.0	-	2 50.0	-	-	1 25.0	1 25.0	-	-
一般社団法人、 財団法人	5 100.0	1 20.0	1 20.0	-	1 20.0	-	-	1 20.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0
公益社団法人、 財団法人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
営利企業 （会社）	64 100.0	25 39.1	13 20.3	11 17.2	10 15.6	1 1.6	4 6.3	5 7.8	8 12.5	6 9.4	13 20.3	4 6.3	6 9.4
特定非営利活動 法人（NPO法人）	24 100.0	6 25.0	6 25.0	4 16.7	6 25.0	-	4 16.7	5 20.8	5 20.8	1 4.2	7 29.2	1 4.2	1 4.2
その他の法人	6 100.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3	3 50.0	-	1 16.7	-	2 33.3	-	1 16.7	1 16.7	-
その他	2 100.0	-	-	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0	-	-	1 50.0	-
上段:件数 下段:%	移動・外出支援の充実	駅や道路などのバリアフリー化	自立生活のための訓練・指導の充実	就労に向けた訓練・支援の充実	多様な働く場所の確保	仕事を継続するための相談や支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	障害者の仲間づくりへの支援	障害者の結婚や家庭づくりに向けた支援	防犯・災害時の支援	その他	特になし	無回答
全体	33 23.1	5 3.5	9 6.3	10 7.0	18 12.6	7 4.9	7 4.9	10 7.0	4 2.8	7 4.9	3 2.1	2 1.4	9 6.3
社会福祉法人	13 35.1	1 2.7	1 2.7	2 5.4	7 18.9	1 2.7	3 8.1	3 8.1	-	3 8.1	1 2.7	-	3 8.1
医療法人	-	-	-	-	2 50.0	-	1 25.0	-	-	1 25.0	-	-	-
一般社団法人、 財団法人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 20.0
公益社団法人、 財団法人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
営利企業 （会社）	15 23.4	3 4.7	8 12.5	7 10.9	4 6.3	4 6.3	3 4.7	1 1.6	3 4.7	3 4.7	-	2 3.1	3 4.7
特定非営利活動 法人（NPO法人）	3 12.5	1 4.2	-	1 4.2	5 20.8	1 4.2	-	6 25.0	1 4.2	-	1 4.2	-	1 4.2
その他の法人	1 16.7	-	-	-	-	1 16.7	-	-	-	-	-	-	-
その他	1 50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-



(5) 今後の事業展開について

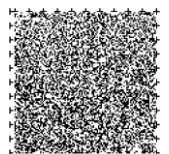
- 事業所で今後参入を考えている障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等で最も多いのは「共同生活援助」の約6%で、「居宅介護」が約5%、「放課後等デイサービス」が約4%となっており、「参入は考えていない」は6割半ばとなっています。
- 事業所における事業の新規開設・拡大で重視している点は「当該地域の利用者数の今後の見込み」が2割半ば、「新しい拠点でのスタッフ確保の可能性」が2割超、「サービス拠点として適当な建物・物件を確保することができること」と「当該地域の現在の利用者数」が1割半ばとなっています。
- 今後障害福祉サービスへの新規参入を促進していくために必要なことは「施設の整備費や運営費等に対する補助」が4割半ば、「サービスを利用する障害者数の今後の見込みに関する情報の提供」が約4割、「サービス展開のための土地・建物に関する情報の提供」と「障害者総合支援法や自立支援給付費に関する情報の提供」が3割半ばとなっています（図10）。

●図10 今後障害福祉サービスへの新規参入を促進していくために必要なこと



(6) 強度行動障害のある方について

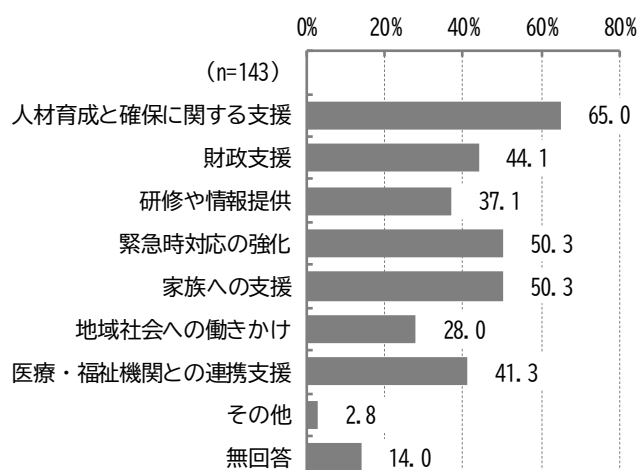
- 事業所として、現在、強度行動障害のある方を「受け入れている」が約3割、「受け入っていない」が6割を超えています。
- 強度行動障害のある方の受け入れを行っていない理由は「利用希望がない」が4割半ば、「事業所として受け入れ態勢を整える予定がない」と「事業所内の人材育成が困難である」が4割近くとなっています。
- 事業所として、これまでに強度行動障害のある方の利用を「断ったことがある」が2割近く、「断ったことがない」が7割近くとなっています。
- 強度行動障害のある方の利用を断った理由は「人材の確保不足」が6割近く、「実務経験不足」と「手厚い支援の継続の確保が困難」が3割半ば、「ハード面の整備不足」が2割半ばとなっています。



○事業所として、強度行動障害のある方への支援に関し、課題と感ずることは「職員の専門的スキル不足」と「人材・支援体制が不十分」が5割半ば、「問題行動発生時の対応の難しさ」が4割半ば、「支援にあたり施設や整備の整備が不十分」が2割半ばとなっています。

○強度行動障害のある方への支援において、行政や地域社会に期待する役割は「人材育成と確保に関する支援」が6割半ば、「緊急時対応の強化」と「家族への支援」が約5割、「財政支援」が4割半ばとなっています(図11)。

●図11 強度行動障害のある方への支援において行政や地域社会に期待する役割



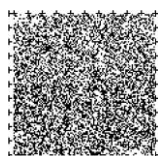
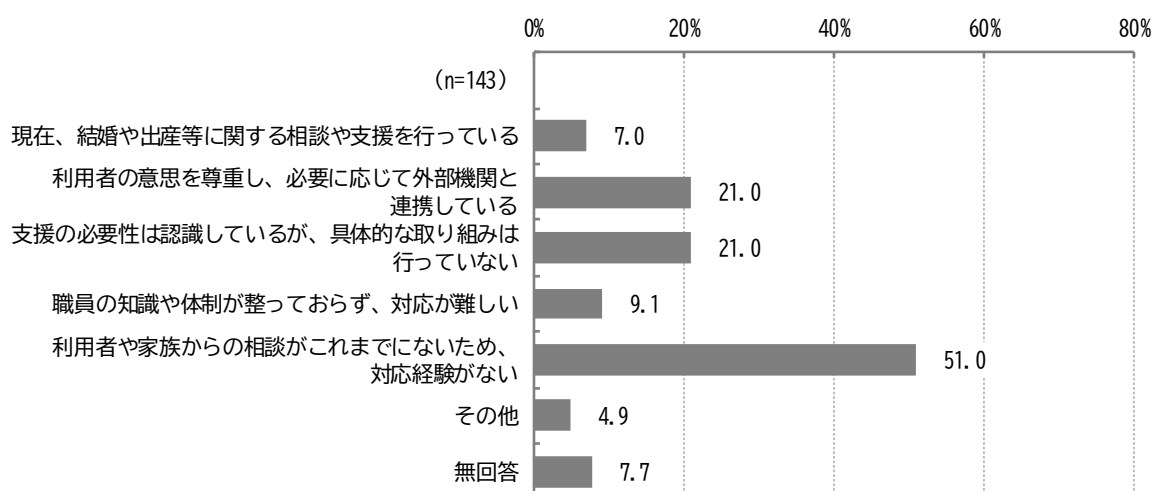
(7) 利用者が希望する生活(結婚・出産等)に関する支援について

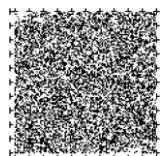
○利用者が「結婚」「出産」「子育て」など、本人が希望する生活を実現するための支援に関する事業所の考えや取り組み状況について、「利用者や家族からの相談がこれまでにないため、対応経験がない」が5割を超え、「利用者の意思を尊重し、必要に応じて外部機関と連携している」と「支援の必要性は認識しているが、具体的な取り組みは行っていない」が2割を超えています(図12)。

○本人が希望する生活を実現するための具体的な支援内容、課題、今後の取り組み予定、行政への要望について、支援体制、生活支援、場の創出、連携の必要性に関する意見などが挙げられました。

○区の障害者福祉をよりよいものとし、区の障害者の地域生活をより豊かなものとしていくために必要な支援等について、サービスの課題、行政支援、運営上の課題、サービス報酬に関する意見などが挙げられました。

●図12 利用者が希望する生活(結婚・出産等)を実現するための支援に関する事業所の考えや取り組み状況





世田谷区障害者（児）実態調査報告書【概要版】

令和8（2026）年3月発行

編集・発行

世田谷区 障害福祉部 障害施策推進課

東京都世田谷区世田谷四丁目 21 番 27 号

電 話：03-5432-2958

F A X：03-5432-3021

